

日本気象学会中部支部長賞の受賞理由について

2020年12月15～16日にオンラインで開催された2020年度日本気象学会中部支部研究会において本賞の対象者（研究を本務としない気象学会員）による22件の口頭発表を審査し、受賞対象者の選考を行いました。その結果、最も優れた研究発表として、名古屋大学の川口航平さんに支部長賞を贈呈することを決定しました。

受賞理由：

川口航平さんは最新鋭のレーダであるマルチパラメータフェーズドアレー気象レーダ（MP-PAWR）により観測された孤立積乱雲について、その内部構造と時間発展を詳細に解析した。MP-PAWRの高速に観測できる特性を生かして、対流セル内に降水コアを特定し、MP-PAWRデータの粒子判別により、あられの領域を同定など積乱雲内の雲物理学的特性をあきらかにした。さらに別のPAWRを組み合わせて、積乱雲の流れの場を解析し、鉛直速度とセル内の粒子の時間変化を対応づけることで、新たに対流セルのステージ分けを、運動学的だけでなく雲物理学的にも行った。さらに降水コアの初期はあられ粒子が主要な成分で、その融解により降水コアの下降が起こったことを示した点は、孤立積乱雲の詳細な時間発展の解明であるとともに、強雨の発生予測にも寄与すると言える。発表においては、問題設定とこれまでの研究に対する位置づけ、結果の新規性・独創性などが明確に示されており、研究結果の説明も論理的で分かりやすいものであった。質疑にも的確に回答し、発表内容も深く検討された完成度の高いものであった。以上の理由から、川口航平さんを2020年度日本気象学会中部支部長賞に選定した。